

大西康夫

Yasuo Onishi Consulting, LLC: 社長

ワシントン州立大学 土木環境工学科: 非常勤教授

元エネルギー省パシフィックノースウエスト国立研究所: 首席研究者 (Chief Scientist)

大阪市生まれで26歳まで大阪で育つ。

1967年 大阪府立大学機械工学科卒業

1969年 大阪府立大学機械工学科修士課程卒業

1969年: アメリカに留学

1972 アイオワ大学で水理学の博士号を取得。

アメリカの環境と生物・人体リスクアセスメントのパイオニアの1人として世界中で活躍。

エネルギー省の4,300人のパシフィック ノースウエスト国立研究所(PNNL)で流体力学の首席科学者として2015年9月まで働く。以前アイオワ大学の世界的権威のアイオワ大学のアイオワ水理研究所で働く。ワシントン州立大学で、環境工学、環境科学、化学工学の大学院クラスを教えている。2011年エネルギー省最高の褒章であるエネルギー省大臣賞を2010年のガルフ湾原油放出事故と2011年の福島原発事故対策の貢献で2つ大臣賞を受賞。

専門部門は、水理学、環境と生物・人体リスクアセスメントで、大西博士の毒性物シミュレーションモデルは世界で認められている。アメリカ土木学会の委員会会長も勤める。国連本部で気候変動対策会議で気候変動による水資源とエネルギーの対策の講演を行う。

IAEAの環境のアドバイザーを長年努める。その委員としてIAEA除染ガイドラインを製作中、又IAEAの委員として福島除染に協力。アメリカのNational Academies of Sciencesの委員としても活躍し、アメリカの国家放射線保護委員会の準委員を務めている。アメリカ政府と旧ソ連政府の原発協定でチェルノービル事故で汚染された地表と水環境評価・除染のアメリカ政府のコーディネーターとして活躍し、アメリカやヨーロッパの研究者達とチェルノービル事故による環境と生物・人体リスクアセスメントを30年行っている。チェルノービル発電所の上に被せる”New Safe Confinement (NSF)”の概念設計とそのNSFの環境への恩恵のアセスメントも行う。大西博士は、エネルギー省、ハンフォード地域内の放射性廃棄物を貯蔵タンクから取り除く作業を首席科学者として行った。

PNNL国立研究所のマネージャーとして、数十の日本の環境の研究も行った。青森県六ヶ所村の低レベル放射物廃棄物処分の方法を作り出し、その処分方法を使っての処分地運営の許可を電力業界が日本政府から得る手助けに成功し、高レベル放射物廃棄物処分の研究等も含まれている。

大西博士の川、入江、海、湖の放射線、毒性物移行モデルは、20年以上も世界で最も進んだモデルとして認められ、いくつかの国でその方法、考え方が使われている。又、大西博士の新しい概念による毒性物移行、生物リスクアセスメントモデルは毒性化学物質、重金属、農薬の水生物へのリスクのアセスメントをアメリカで統計的危険率（ストカスティックリスク）で行う初めとなった。博士の別のモデルはIAEAの放射性物質の水環境評価の公式のモデルである。その他、地球温暖化の一対策として、発電所から放出される炭酸ガスの除去、液化、海底投棄のアセスメントも行なう。

大西博士は200以上の学術文献と16冊の共著の専門書を出版し、チェルノービルの環境、生物人体危険率の本の主編集長です。大西博士はアメリカの高校の教科書、“Earth Science”に紹介されており、アメリカで人気のある公共テレビ科学番組、“NOVA”と中国の国内・国際テレビ CCTVにも出演した。